

建設業社会貢献活動 推進月間中央行事で 安藤副会長が受賞されました



(株)全国建設業協会では、地域の建設企業が行っている社会貢献活動を国民に正しく理解・認識してもらうために、平成18年より毎年7月を「建設業社会貢献活動推進月間」と定めており、7月の月間中には各県建設業協会は会員企業と連携して、地域建設業界の実践している幅広い社会貢献活動を広くアピールするとともに、公共事業への理解を深める活動を展開しています。

その一環として、「建設業社会貢献活動推進月間中央行事」が去る7月27日に東京都の新経団連会館において開催されました。冒頭、浅沼全建会長からは、今年も全国各地で被害が起きた豪雨災害と宮崎県の口蹄疫問題について、お見舞いの言葉と、今も災害復旧に取り組まれている各県建設業協会の会員を激励しました。挨拶の後、全国で22の協会、29の会員企業が災害復旧支援活動や環境美化活動及びイメージアップ活動など7つの部門毎に受賞式が行われました。

中国地区では(社)山口県建設業協会が「環境美化活動」で受賞され、同支部長で県協会副会長でもある安藤光吉氏(安藤建設(株))が代表して、「建設業社会貢献



活動功労者表彰」を受賞しました。また、今年の事例発表は3例紹介されましたが、その内の1つ、宮崎県建設業協会の永野会長より「口蹄疫防疫対策への支援活動等に想う」と題する発表が行われました。

その経緯をたどると、4月20日に第1例目が発症した都野町を皮切りに、6月24日までに宮崎県内各地に被害が飛散した中で、昼夜を分かたず殺処分した牛、豚の数は約29万頭であり、1日平均4千頭の埋却作業を建設業協会が受けもったそうです。

発表最後に、永野会長からは「これだけの大規模な支援であり、また建設業協会の支援なくして、今回の事態の收拾はつかなかった状況でありながら、マスコミには1社も取り上げてもらえなかった。またしても、こういった建設業界の社会貢献は表に出ず、行政の対応も悪く、評価して頂けないことに憤りを感じている」とのことでした。



山口県からも参加した建設業界側の人間として、是非このことは広く知って頂きたいと思っています。



建設マスターとは、
第一級の技能のスペシャリストです

■平成22年度優秀施工者の国土交通大臣顕彰について
この顕彰は、長年にわたる建設工事施工経験があり、施工能力等の技術的能力に優れた者を顕彰するもので、別名「建設マスター」とも呼ばれています。平成22年度は協会員の推薦により、次の3名の方々が顕彰されました。

優秀な人材を確保・育成
優秀施工者(建設マスター)
国土交通大臣顕彰



山口市 大和建設(株)推薦
塗装工
河野 明



下関市 福永建設(株)推薦
建具工
大政 幸男



萩市 日進電気工事(株)推薦
電工
谷本 成規